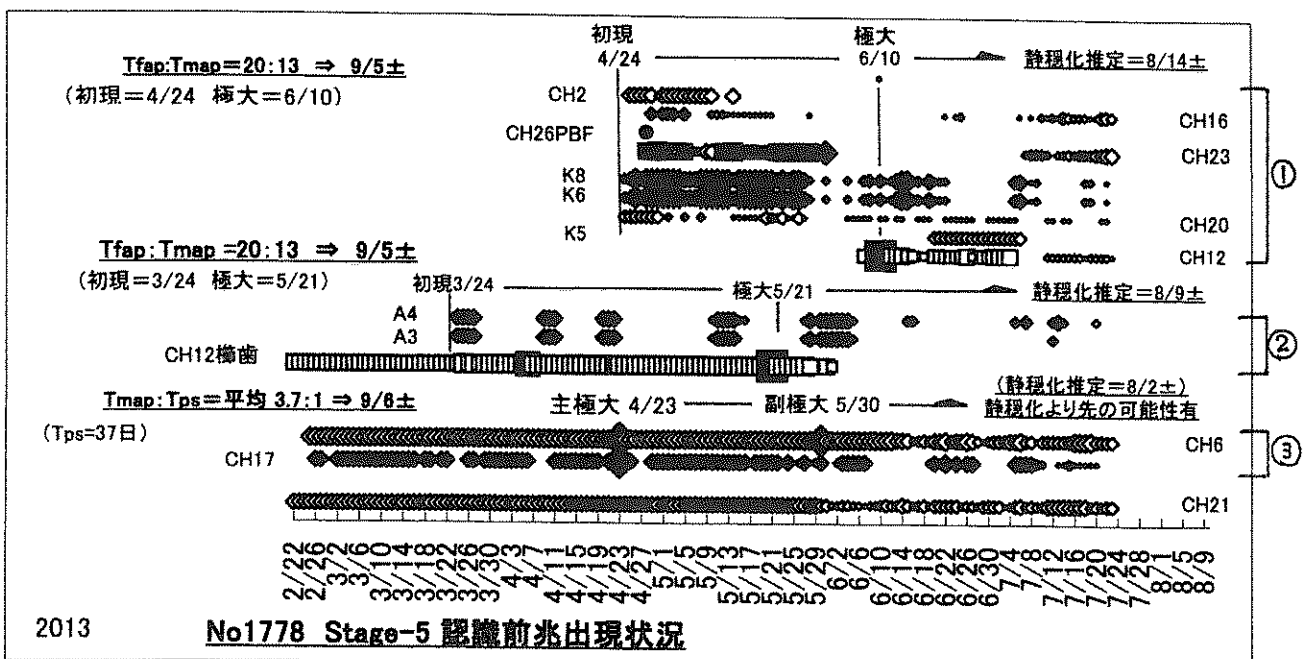
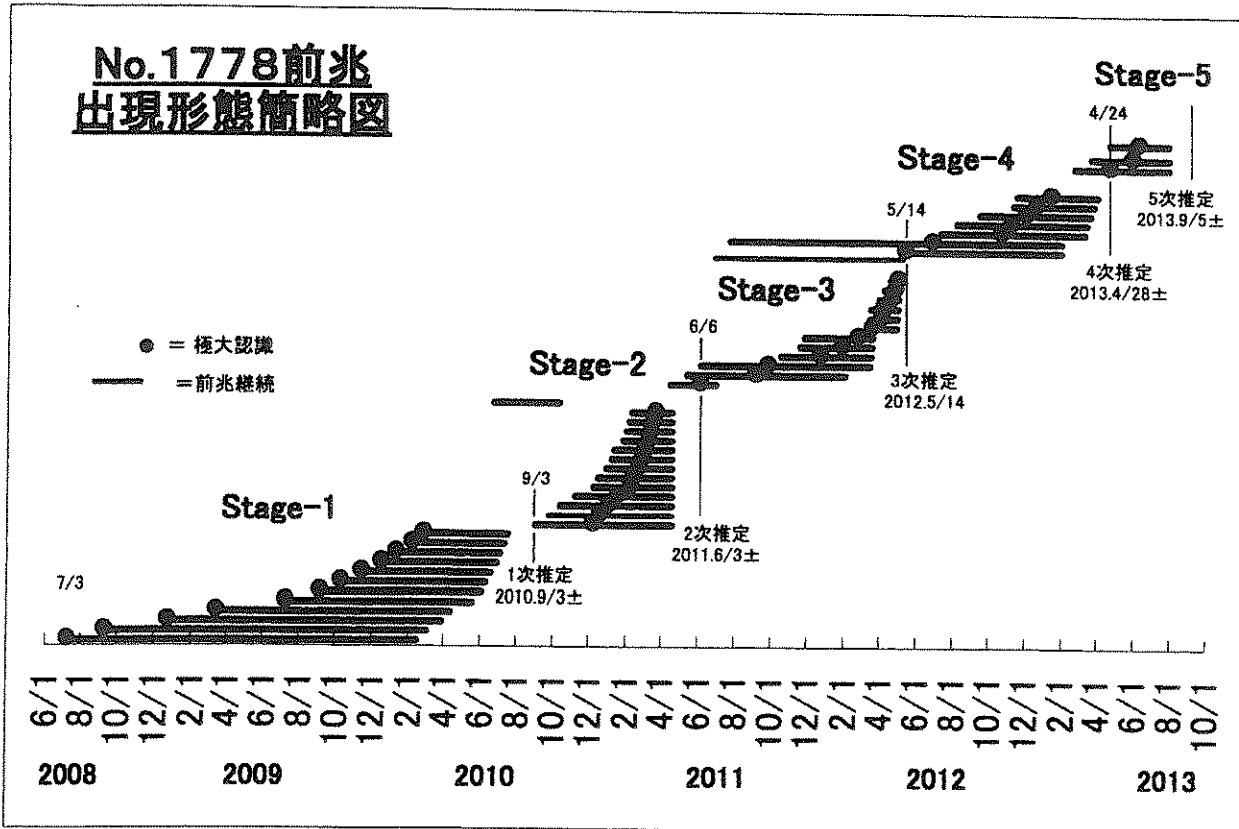


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 現況認識



原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 現況認識

No.1778=5年以上継続の観測歴上最長継続特殊前兆の続報。  
現在の第5ステージ認識前兆群の出現形態の再認識から、前頁の下図の様な初現～極大の関係の可能性を考えております。  
本日7/23夕刻時点で、6観測装置の前兆が継続出現しており、前号認識のとおり、7/21±前兆終息は確認できませんでした。従いまして、08月中発生の可能性も完全否定できません。  
前頁の下図の各前兆の関係から大別して3つの組合せの可能性を考えております。

①と②の前兆群の極大については、CH12の櫛歯前兆のピークを各々の極大の可能性としています。その理由としては次の様なことを考慮しております。

①前兆群は、5月下旬頃に前兆が終息又は減衰している観測装置が多々あります。4月下旬～5月下旬期間に顕著に集中出現していることから、この中心時期に極大がある(この場合は4/24は初現ではなくなる)又は、集中出現後である5月下旬～6月中旬頃までの期間中に極大がある、と云う二つの可能性が考えられます。しかし、集中出現期間中心の5月初旬時期には極大認識できる前兆変化が確認できません。この為後者にあたる6/10にあるCH12櫛歯前兆のピークを①前兆群の極大の可能性と考えた次第です。6モニターもの前兆に対しひとつのモニターの極大を全体の極大とする認識は過去例とは調和しません。①の前兆全体傾向変化からは、6/10極大とすると、不自然では無い変化に見えます。

②前兆群は、当初秋田観測点のA3A4の特異を先行特異の可能性と見ていましたが、既に調和しないため、前兆初現の可能性と再認識。こちらは6月初旬以降は殆ど顕著な前兆継続が認められません。従いまして、上の①前兆と同様に考えますと、5月下旬～6月初旬時期に極大が存在する可能性を考えました。A3A4特異の前兆出現開始である3/24を初現と認識しますと、①前兆と同じCH12櫛歯前兆のピーク5/21を極大認識しますと、前兆初現～極大の時期と間隔日数から $T_{\text{前兆}}:T_{\text{極大}}=20:13$ 経験則使用で、①前兆群と全く同じ日=9/5 ±が計算できますため、②前兆群(A3A4)の極大を5/21の可能性とした次第です。

CH12櫛歯前兆は、5/21にピークが出現した後、6/1で終息しています。その後、6/7から再び出現し6/10にピークが出現しています。途切れなく継続出現していたCH12櫛歯前兆に6

日間も静穏期間が現れたことから、5/21と6/10の各ピークは別々の極大である可能性を考え、左記の①前兆群と②前兆群の各極大の可能性を考え次第です。但し、この認識が正しいか否かは不明です。たまたま前述の様な認識で前兆初現～極大の関係を経験則に当てはめると、同じ日が算出されると云うことから、可能性のひとつとして考えています。

③前兆群(CH6, CH17 特異)は、2月下旬から継続出現していますが、暫くの静穏期間を挟んで、より以前から出現しているため、明確な初現が見いだせません。4/23にCH6, 17両方に極大認識できる変化が認められます。但しCH17には5/30には極大認識できる変化が認められません。現在、CH6の4/23を主極大、5/30を副極大の可能性と認識しています。主副と二つの極大が出現するケースは、地殻地震では良く認められる前兆形態で、主副極大間日数を $T_{\text{ps}}$ 、主極大～発生を $T_{\text{map}}$ としたとき、 $T_{\text{map}}:T_{\text{ps}}=平均3.7:1$ 経験則が認められています。CH6の主副極大間( $T_{\text{ps}}$ )=37日で、平均値の3.7倍を主極大日である4/23に加算しますと、①前兆及び②前兆を左記のとおり認識で計算した場合と同じ、9/6 ±が計算されます。但しより以前から前兆が出現していた点から、仮に9/5±発生が正しい場合でも、CH6, 17共に計算上の静穏期 8/2±に静穏化するかどうかは不明なところがあります。

以上の様に、現在の第5ステージ前兆群変化を考えやすい形で経験則に当てはめようとしますと、前述の様な関係が同じ時期を示すことから、可能性のひとつとして否定できない状況です。しかし、①前兆群と②前兆群の各極大をCH12櫛歯前兆を使用している点は、疑問と違和感を覚えます。

尚CH21は継続出現のため、他前兆との関係は不明です。

現在の認識が全く間違っている可能性も十分考えられます。例えばK6K8が減衰した後、再び強くなった06月中旬を①前兆群の極大と仮定しますと、発生は10月時期が計算されますし、他の可能性もあり得ます。引き続き、現在の認識が間違っている場合の可能性を考慮して、観測を続け、前兆変化を鑑みて、正しい前兆関係を見いだせたらと努力して参ります。ちなみに、現在前兆は全体的に静穏化傾向にあり、CH6, 21, 23 がやや顕著ですが、他は微弱又は断続的出現となっており、8月に入って前頁下図右端記載の前兆静穏化推定時期(又は以前に)前兆が静穏化した場合には、現在の認識が正しいこととなります。観測を続け再考を重ね、続報で報告させて戴きます。